編集後記

『臨床教育人間学』第 15 号が、めでたく刊行されました。本号の編集作業にあたっては、責任者の齋藤直子先生の指揮の下、多くの方々からご協力を賜りました。まず初めに、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

本号は、前号（第 14 号）とほぼ同じ構成ですが、著者一覧（Notes on Contributors）のページが新たに追加されました。そのページを試しに開きますと、執筆者のプロフィールがずらりと並んでいます。各執筆者の現在の研究関心や研究内容などが、ざっと一目でおわかりいただけるだろうと思います。

私は、編集作業の合間に、この著者一覧のページをふと見渡してみたとき、臨床教育学・教育人間学という二つの学問領域の守備範囲の広さに、改めて驚かされました。さらに言えば、それぞれの研究領域がこれだけ多様であるにもかかわらず、互いに決して無関係ではない（あるいは、何らか密接に関係し合っている）ということに、同時に驚かされました。本紀要『臨床教育人間学』の各論文は、その名が冠している四つの語彙、すなわち「臨床」・「教育」・「人間」・「学」への根源的な問いかけを出発点とし、そこに諸哲学や諸実践の多様な知見を導入しながら、さらにはそれらを互いに共有することによって、互いが互いの議論を触発し合うような、いわば相互触発の関係において成り立っているように感じられます。本号に収められた論文は、たしかにそれぞれ特異な主題を扱っていますが、しかし読者の皆さんは、それらの主題の間に複数のつながりを見出すことができることでしょう。

では、私たちは、具体的にどのようなつながりを見出すことができるのでしょうか。この問いは、何よりもまず読者であるあなたに委ねるより他ありません。複数の著者たちと対話しようとする読者の思考上においてこそ、そのつながりは生まれてきます。ぜひとも、『臨床教育人間学』第 15 号をご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、本号の編集作業においては、共に仕事を引き受けてくれた研究室の院生メンバーの存在が欠かせなかったことを、ここに付記しておきたいと思います。院生メンバーの皆さん、ご協力、本当にありがとうございました。

2021 年 9 月 13 日

京都大学大学院 教育学研究科 臨床教育学コース
編集補佐　博士後期課程　山本　源大